

シブパネルを主催する方へ

主催者の役割のひとつはパネリストの盾になることです。
登壇してくれるきょうだい安心して臨めるようにするために必要なことを記します。

1. パネリストが安心感を持てるような設定にすること

- ①スタッフ、モデレーター、パネリストで十分に事前打ち合わせをしましょう。
気持ちの共有、互いの経験や考え方を尊重する姿勢・雰囲気大切にします。
- ②当日は振り返りの場を設けましょう。
モヤモヤした気持ちが残らないように、素直に語れることを大切にします。
- ③パネラーの知りたいこと・知りたくないことに気を配ります。
 - ・参加者の属性など
 - ・広報の仕方(どういう呼びかけ方をするのか)※試行では名前等は出さず「病気や障がいのある方のきょうだい3名」という表現にしました。
 - ・個人情報を除いた当日の内容を記録・公開する予定がある場合はどのような形なのか(主催団体の報告書に掲載される、新聞などの取材が入る、Webに掲載されるなど)
 - ・聴衆にはアンケートへの協力を依頼し、振り返りの場で読めるようにしておくことで、たとえば否定的な意見などがあつた際にフォローできるようにします。
- ④パネリストの知られたいことや個人情報に気を配ります。
 - ・名前は呼んでほしい名前と呼ぶ。年齢は年代でOK。など。
 - ・パネリストが気兼ねなく話せるように、パネリストの家族は参加を控えるようお願いしましょう。

2. シブパネルの「場」が安全であるように運営すること

- ①聴き手にも役割があることを聴衆に伝えます
 - ・登壇者の話してくれたことを評価する場ではない
 - ・話につまったり、上手に話せなくても当たり前
 - ・パネリストは準備の間も、当日も、終わってからも、心が揺れる中で協力してくれていることを知っておきたいです。
- ②今日聞いたことはこの場だけ。撮影、録音しないよう伝えます。
- ③きょうだい支援に関する基礎知識を身に着けておくことが望ましいです。
 - ・自身の価値観や家族観を基準にしない
 - ・批判やアドバイスをせず話をそのまま聴かせてもらう
- ④モデレーターの役割
モデレーターは中立の立場で進行するよう心がけます。モデレーターが作り出す雰囲気も場に影響を与えます。パネリストの人となりや人生を受け止めようとする姿勢や、聴衆が聴きたいと思っていることや相槌を打ちたいと思ったことを代弁するといった役割を適宜行っていきます。また、パネリストとモデレーターの間信頼関係が構築されていることは、安心して話してもらえる環境にとって極めて重要です。

3. シブパネルはみんなでつくる場であることを関係者全員で共有します

パネリスト・モデレーター・聴衆・スタッフで、ひとつの「場」をつくりあげていくことが、それぞれの人にとっての安心安全につながります。

パネリストの方へ

- ・パネリスト(話し手)は、聴き手の責任まで負う必要はありません。
「期待に応えなければ」「きょうだいについて正しく理解してもらわなければ」と気負わず、心がざわざわすることなく話せることだけ、話してください。あなたが話してくださる経験は、とても大切な大きな学びになります。
- ・自身と家族の情報をどこまで公開するのか整理しておきましょう。
どこまで話すかはパネリストに決める権利があります。
- ・好意的な反応だけでないかもしれないことを想定しておきましょう
「わかってほしい」「わかってもらわなくては」という気持ちが強いと、伝わらなかったと感じた時の傷つきも大きくなります。ご自身の心を守ることを最優先してください。